

学生が地域に出向いて行う工作教室の意義

守川美輪

要約

平成28年度に宮崎国際大学教育学部学生が宮崎市きよたけ児童文化センターに出向き、工作教室を行った。その結果、来館者が増加するとともに、工作教室に参加した児童は製作体験を深めた。著者にとっては、新たな教材を開発でき、学生にとっては児童が真剣に製作に取り組む姿にふれることのできるよい機会となり、企画力、実践力を高めることができた。今後は、学生の学習を深めるための効果的な事前指導及び事後指導を実施した上で工作教室を行い、地域に貢献できる実践を重ねていきたい。

キーワード

地域連携、工作教室、教材開発

1. はじめに

著者はこれまで、子育て支援イベントに学生とともに参加し、幼児向けの遊びの企画運営を行ってきた。その運営委員会で、宮崎市きよたけ児童文化センターの職員と出会い、その職員から共同で何かできないかと相談があった。著者は美術を担当し、本学「アートクラブ」の学生と共に地域の子育て支援活動に関わってきたので、工作教室及び親子遊びを提案した。先方と本学教育学部の了解を得て、平成28年度に「工作教室」、「夏休み企画」、「親子遊び」を実施した。

本稿では、平成28年度に実施した「工作教室」、「夏休み企画」、「親子遊び」の内容と結果、今後の課題について述べる。

2. 工作教室・夏休み企画・親子遊び企画のタイトルと参加学生

(1) 平成28年度実施期日とタイトル

宮崎市きよたけ児童文化センターでは、毎週金曜日15:00～「おたのしみ工作」を実施している。職員1名が担当し、製作を希望する児童および保護者と参加する幼児を対象としている。その定期的に行われている「おたのしみ工作」のうち10回を本学教育学部の学生が担当した。今年度担当した月日とタイトルおよび担当学生数を次に示す。時間は毎回15:30～17:00である。

工作教室			
回	月日	タイトル	学生数
1	4月22日(金)	①ケーキ屋さん	3
2	5月13日(金)	②お話づくり	2
3	5月27日(金)	③おれの剣・わたしの剣	3
4	6月10日(金)	④貝殻デコレーション	3

5	6月24日(金)	⑤エッグキャンドル	4
6	10月28日(金)	⑦〇〇に変身!1 (服をつくる)	3
7	11月4日(金)	〇〇に変身!2 (帽子や持ち物をつくる)	3
8	11月11日(金)	〇〇に変身!3 (鑑賞・写真撮影)	3
9	11月18日(金)	⑧ダンボール工作1	3
10	12月2日(金)	ダンボール工作2	3

「夏休み企画」、「親子あそび」は土曜日に実施した。日時、タイトルおよび担当学生数を次に示す。

夏休み企画 (工作教室)			
回	月日・時間	タイトル	学生数
1	8月27日(土) 10:00~12:00	⑥棒つきチョコレート・みんなでかこうでっかい絵	3
親子遊び			
1	12月10日(土) 10:00~12:00	⑨親子で遊ぼう	8

(2) 本学学生が工作教室および親子あそびを行う目的

工作教室については、児童と楽しく工作をすること、学生の企画力や実践力を高めることを目的としている。また、小学校図画工作科では扱わないような内容で児童が楽しめる造形表現教材開発を行うことも意識している。親子遊びについては、親子遊びを楽しんでもらうことと、学生の企画力や実践力を高めることを目的としている。

(3) 内容と担当学生

内容については、アートクラブの学生と著者で案を出し合って決めた。前記タイトルのうち著者が提案したのは「ケーキ屋さん」「お話づくり」「おれの剣・わたしの剣」「エッグキャンドル」「棒つきチョコレート」「みんなでかこうでっかい絵」である。学生が提案したのは「貝殻デコレーション」「〇〇に変身!」「段ボール工作」「親子遊び」である。

担当学生については、著者が顧問を務めるアートクラブの学生を誘った後、教育学部1・2年生に全体メールで募集し、希望者に対する説明会を実施し、担当を決めた。また、学外活動に興味がありそうな学生に声を掛けた。同じ学生が何度も担当するのではなく、できるだけ多くの学生が参加できるようにした。参加学生は21名(のべ41名)である。


(4) 会場への移動


金曜日の活動については本学授業の3限目終了後14:40に集合し、著者と学生の車で移動した。宮崎市きよたけ児童文化センターは本学から2km、車でおよそ5分である。土曜日の活動については現地集合とした。

3. 参加者数、活動の概要と準備、結果及び課題



工作の内容によって参加者の増減があった。予想以上に製作希望者があり、時間内でも参加の受け入れを止めたこともあった。通常の「お楽しみ工作」と同様に、小学校名、学年、氏名を児童が受け付け用紙に記入した。幼児が参加する場合と「親子遊び」企画では保護者が記入した。各回の参加者数はタイトルの右に示した。

以下、各回の活動の概要と準備、結果（活動の様子等）と課題を示す。

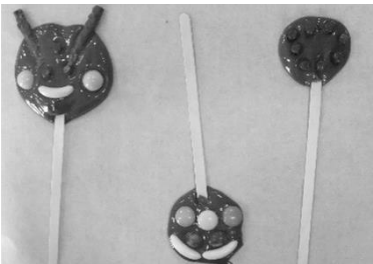

① ケーキ屋さん		42名（大人2名を含む）
概要	紙粘土に木工用ボンドと絵の具と水を入れてつくったクリーム状の粘土を、ダンボールを染めて丸く切った土台に絞る。いろいろな色のクリーム状の粘土でデコレーションする。	
準備	<ul style="list-style-type: none"> ケーキの土台としてふさわしい色（黄・茶・焦茶・黒・赤・抹茶色など）に段ボールを染め、直径6.5cmの空き缶で型を取り、丸く切り抜く。 ビニール袋に軽い紙粘土200g、水200g、木工用ボンド100g程度、絵の具（ポスターカラー）を入れてよくもむ。しばらく置いてなじませ、口金を付けた絞り袋に入れる。絵の具はクリームにふさわしい色（黄、赤、緑、紫、チョコレート色）を使う。 箱用の紙を21cm角（本体用）と22cm角（蓋用）に切る 	
結果		<ul style="list-style-type: none"> クリームの形と色で様々なデザインのものを製作していた。 ひとりで何個も製作する児童があった。 丸く切った段ボールを何枚も積み重ねているものもあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 正方形の紙を折ってケーキを入れる箱をつくったが、折り方が難しかった。長方形の紙を使う簡単な折り方にすべきだった。 クリーム状につくった粘土が固く、児童の力で絞りにくかった。紙粘土の分量と水の量を正しく測ってクリーム状の粘土を作成しておくべきだった。 準備していた量が足りず、後から会場に来た高学年の児童が製作できなかった。 美しい作品が多数できたが、作品のよさについての声掛けが足りなかった。担当学生に対しても、児童の作品のどこがよいかを尋ね、構成美について意識させればよかった。 	
② お話づくり		24名（大人4名を含む）
概要	木の葉や薄いものの上に紙を置いて、クレヨンを塗った丸いダンボールで擦ると形が写る。その形から思いつくお話をつくる。	
準備	<ul style="list-style-type: none"> 木の葉を採集し、押し葉にしておく。お話を思いつきやすい形に紙を切る。（家・動物・花・剣など） 前回の「ケーキ屋さん」で使ったものと同じ大きさに段ボールを切る。（当日凹凸のあるものの上に薄い紙を乗せ、紙の上からクレヨン2、3色を塗った段ボールで擦る） お話を書く紙を冊子状に綴じ、背をマスキングテープで飾る。（当日フロッタージュをした形を切り取って、この冊子に貼って使う。） 	



結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロッタージュでできた色の美しさに感嘆の声をあげる児童があった。 ・ お話づくりについては発想を広げることのできる児童とそうでない児童の差があったが、フロッタージュでできた模様助けられて、お話をつくることができていた。 ・ フロッタージュだけでなく、折紙で折った形を貼り付けている子どももあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「お話づくり」を難しいと感じているのか、誘っても活動に入って来ない児童が多く、参加人数が他の工作活動と比べて少なかった。 ・ 児童の作品をゆっくり見ることをしなかった。
③おれの剣・わたしの剣 55名 (大人5名を含む)	
概要	ダンボールに剣を描いて、クレヨンの色を重ねて塗る。形を切ってから、つやニスで仕上げる。
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段ボール紙の目が縦横交差するように木工用ボンドで2枚重ねて貼り付け、乾かした後、剣を描くのにふさわしい大きさに切る。 ・ 剣の見本をつくる。
結果	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの児童が関心をもって製作し、様々なデザインの剣ができた。 ・ 剣から発想して手裏剣を製作する児童もあった。 ・ リボンやハート、星などを描き、かわいらしく仕上げたものもあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50枚以上剣用の段ボール紙を準備していたが、一人で何本もつくる児童があり、遅い時間に来た児童は、意欲があっても製作できなかった。 ・ 見本にギザギザ型の剣をつくっていたが、それを見て同様の剣をつくる児童が数名あり、それを切るのに手間取った。(剣の形に切り抜くのは著者と学生1名が担当した) ・ 表裏にニスを塗った後、乾かす場所が狭かった。ニスを乾かすためにうちわで風を当てたが乾かすのに時間がかかった。ドライヤーを数台準備するようにするとよかった。 ・ 剣が折れ曲がらないように段ボール紙を2枚貼り合わせていたが、柔らかいものや、折れ目がついていた段ボールを使ったものがあり、それを使った剣は折れ曲がりやすかった。 ・ 作品の良さについて児童にもっと声掛けをすればよかった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の都合で、広報していた予定より一週間早く実施した。広報をしていた日には著者と「おたのしみ工作」担当職員と二人で剣をつくる指導を行ったが、この回に参加する児童も多かった。(50名位) 二週連続で剣を製作する児童もあった。
④貝殻デコレーション 69名 (大人10名を含む)	
概要	ガラスびんに貝殻やビーズを貼って、きれいな入れものをつくる。砂のような塗料を使ったり、アクリル絵の具で色をつけたりする。

学生が地域に出向いて行う工作教室の意義

準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試作し、接着剤としてふさわしい材料（アクリル絵の具のグロスメディウム）を選んだ。 ・ 製作の手順を示す掲示用の資料を作成した。 ・ 宮崎市きよたけ児童文化センターの協力を得て、貝やガラス瓶、デコレーション用のビーズ等を準備する。
結果	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使いたい色をイメージし、混色して求める色をつくりだしていた。 ・ 自宅から瓶を持参する児童もいて、この製作を楽しみにしていることが感じられた。 ・ 熱心に製作する児童がとても多く、色や装飾に美しさが感じられる作品が多かった。児童の美的感覚が優れていることを感じた。 ・ 使いたいビーズの色を決めて、それを混ぜたビーズの中から根気よく探す児童があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瓶は 60 個以上準備していたが、足りなくなり、遠くから保護者と一緒に来てくれた児童を含めて多くの児童が製作出来なかった。 ・ 購入した「グロスメディウム」が試作した際に使ったものとメーカーが違い、製品の粘度が低く使いにくかった。大学に取りに戻るなどして対応したが、あらかじめ、中身を確認しておくべきだった。 ・ 接着したものを乾燥させるのに時間がかかった。今回はドライヤーを 3 台使ったが足りなかった。 ・ 素晴らしい作品が多かったが、鑑賞の時間を持つことができなかった。
⑤エッグキャンドル 70名（大人 11名を含む）	
概要	<p>卵の殻に芯を置き、色をつけた溶かしたろうを入れ、2～3 色のろうそくをつくる。ろうが冷えて固まってから卵の殻をむく。</p>
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮崎市きよたけ児童文化センターの協力を得て、卵の殻と原料の蠟を準備した。蠟は結婚披露宴で使ったキャンドルを砕いたものと顆粒状の蠟とを併せて使用した。 ・ 学生とともに試作をし、蠟は 3 色まで使用させることとした。違う色を使う場合は、20 分おきよう児童に伝えることとした。終了時刻 30 分前に来た児童には、蠟を 2 色まで使わせることとした。
結果	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの児童が熱心に製作した。 ・ 多くの児童が集まり、祭りのような熱気があった。 ・ 色鉛筆でデザインを描いてから製作した。この色の組み合わせで製作したいという意志がはっきりした児童が多かった。 ・ 蠟を配るのに時間がかかったが、担当職員の呼びかけに応じて、児童は並んで待ち、混乱はなかった。

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料を多く準備したつもりだったが、足りなかった。 ・ 蠟を鉄製の空き缶に入れて湯せんしたが、缶が小さかったので、すぐに蠟が足りなくなった。大きめの缶を使用すればよかった。 ・ 蠟を紙コップに入れて児童に渡したが、残った蠟を持って来るように指示していなかったため、残った蠟が紙コップの中で冷えて固まってしまうことが多かった。必要な分量だけが入る小さな紙コップを使用するとよかった。 ・ 蠟を渡すのに時間がかかり、児童を待たせてしまった。 ・ 持ち帰る際に、十分に冷えてから卵の殻をむくこと、殻をむいた後は、卵を安定させるために底部をカッターナイフで削ると良いことを伝えていなかった。説明文を渡すなどして、家庭で適切に仕上げることであればよかった。
<p>⑥棒つきチョコレート・みんなでかこうでっかい絵 27名（大人7名を含む） （参加費 200 円準備があるので事前に申し込みをしてもらい、20 組で締め切った）</p>	
<p>概要</p>	<p>チョコレートを溶かして、棒をつける。チョコレートの上に小さなチョコレートをトッピングする。冷蔵庫で冷やす間、大きな絵を描く。チョコレートはラッピングして持ち帰る。</p>
<p>準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試作をした際、冷蔵庫に運ぶまでに暑さで溶けて平たく広がってしまったので、クーラーの設定温度を低めにしてもらうこととした。 ・ A4の厚紙上にクッキングシートを敷き、その上でチョコレートを成形することとした。クッキングシートの端をホチキスで固定する。 ・ 冷蔵庫に入れる際に重ねて入れることができるよう、ブロック状の木片を一人あたり 4 個つくる。 ・ 上に飾るトッピング用の小さなチョコレートを一人分に分ける。 ・ グループで描く際、時間を区切って描いている絵をローテーションさせる方法をとることとした。全紙サイズの紙（68cm×98cm）を使う。真っ白な紙だと描きにくいので、あらかじめ著者と学生が形をいくつか透明感のあるクレヨンで描いておいた。 ・ はじめはクレヨンだけで描かせる予定であったが、絵の具と筆、スポンジローラーも持って行った方がよいとの学生の意見を取り入れた。 ・ 試作をし、2分描いた後ローテーションをすることとした。

<p>結果</p>	  <ul style="list-style-type: none"> 一人3個の棒つきチョコレートをつくることのできた。様々な配置や組み合わせのトッピングをしていた。 ゆっくりつくる子や、迷いなくつくる児童があった。 1グループ5、6名で、絵をローテーションして描くことができた。 最初はおそろおそろ描いている児童が多かったが、次第に手がよく動くようになった。 迫力のある絵が完成した。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 冷蔵庫を2台使ったが、一方の冷えが弱く、十分に固まらないまま取り出してしまう、再度冷蔵庫で冷やした。冷蔵庫の設定を強にするとよかった。 チョコレートを冷やす間に絵を描く予定であったが、絵を描き終わってもチョコレートは固まらず、待ち時間ができた。学生のアイデアで「爆弾ゲーム」をして楽しく過ごすことができたが、あらかじめ、時間が余ったときにする活動を決めておくよかった。 鑑賞の方法について学生たちと打ち合わせができていなかった。絵を鑑賞する機会を持ったが、見て「いいね。」で終わっていた。何が描いてあるか、絵を回して描くと何がよかったか、どんなことができたかまで振り返り、伝え合うことができれば良かった。
	<p>⑦〇〇に変身1 (服をつくる) 21名 (大人3名を含む) 〇〇に変身2 (帽子や持ち物をつくる) 27名 (大人3名を含む) 〇〇に変身3 (ファッションショーをする) 22名 (大人4名を含む)</p>
<p>概要</p>	<p>大きなポリ袋を使って、服やマントをつくる。段ボールを使って、剣や盾、鎧などをつくる。帽子や持ち物をつくった上で、ファッションショーをする。</p>
<p>準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> カラーポリ袋を使って、ドレスの見本を学生3名で3種類製作した。 段ボール箱を使った鎧の見本の製作。帽子の鏢の型紙、飾りの見本の製作。 持ち物の例として画用紙を細長く切った紙を使ったかごの見本の製作。 小物の例として段ボールを切った枠にセロハンを貼っためがねの見本の製作。 ファッションショーの進行の際に使う、マイク・スピーカーを借りる。

<p>結果</p>	 <ul style="list-style-type: none"> それぞれの児童が、つくりたいものを製作した。 魔女の服、帽子、ステッキを完成させた児童があった。 例として示したかごを製作する際は、配色を考えて色画用紙を選んでいた。 かごをつくる際は、仕上がりに納得いかない場合は、最初からやり直す姿もあった。 「かっぱ」をつくりたいと言って自分で工夫して完成させた児童があった。 <ul style="list-style-type: none"> ファッションショーに参加したのは6名であった。 学生が明るくファッションショーの進行を担当し、楽しい雰囲気であった。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3回にわたる活動のため、最終回に来ることができない子どもには作品を直接渡すことができなかった。 製作途中の作品を紛失してしまった例があった。 ファッションショーをするのを恥ずかしがり、ショーをするならば、製作はしないという児童があった。
<p>⑧段ボール工作1（ウクレレをつくる） 42名（大人8名を含む） 段ボール工作2（色を塗って仕上げる） 14名（大人2名を含む）</p>	
<p>概要</p>	<p>段ボールでウクレレをつくる。凧糸を張って弦とする。好きな色の絵の具を塗って仕上げる。</p>
<p>準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生が製作方法を調べ、つくり方を図で示した。 試作品を学生3名で3個製作した。 丸い胴の型紙を作成し、柄や胴の側面の部品などを20人分作成した。 当日材料を取りやすいように、取る数を示した上で机に並べた。
<p>結果</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 段ボールを丸く切るのに、段ボール用の小型の鋸を使ったが、低学年の児童でもそれを使って切ることができた。 色を塗る際に、丸い胴を1色で塗らず、途中で色を変えてカラフルに仕上げる児童が多かった。 <ul style="list-style-type: none"> 普段参加しない児童が『ウクレレを習っているので、製作したい』と参加した。 凧糸の弦であったが音が出て、それを児童が喜んでいた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 準備した材料の数が足りず、会場で段ボールを必要な大きさに切った。 胴と側面との接着が難しそうであった。2回目は接着しやすい方法に改めた。 弦を張ってから色を塗るのか、色を塗ってから弦を張るのかの手順を確認していなかったため、指導する学生によって差があった。

⑨親子で遊ぼう		30組募集したが、申し込み人数が少なかった。子ども17名大人9名
概要	会場に置いた「遊び方の図」を見ながら、親子で遊ぶ。 遊び終わったら、遊び場のマップにスタンプラリーのようにシールを貼る。	
	階段のおもちゃ（触って遊ぼう 学生手づくり玩具）、グラグラおもちゃ（乗ると揺れる バランスを取って遊ぶ）、ゲーム（輪投げ・玉入れ・サッカーシュート・魚釣り）、製作（紙トンボ）、運動遊び（すべりだい・ペンギン歩き・平均台・ケンケンパ・マット山・キャタピラ・布くぐり）、0～1歳用玩具、カラカラ積み木、体で遊ぶ（山登り・お馬さん）、お絵かき、絵本、マシュマロチョコサンド	
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生がマップを製作した。学生と著者が「遊び方の図」を作成した。 ・ 学生の発案で会場の階段に各自「触って遊べる玩具」を製作した。 ・ 製作コーナー「紙とんぼ」の材料にあらかじめ形を書いておく。 ・ 会場に置く玩具を持ち込む。 	
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子が楽しく遊んでいた。歓声上がる場面もあった。 ・ 学生が遊びに関わり、学生も楽しんでいた。 ・ 関心のある玩具で何度も遊ぶ子どもがあった。 ・ 付近で別の催しがあり、駐車場の空きがなくなったので、来場者が少なかった。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 装飾をしたり、音楽を流したりすれば、もっと楽しい雰囲気になれたのではないかな。 ・ 保護者への声掛けをもっとできればよかった。 	

4. 成果

(1) 教材開発・教材研究

小学校図画工作科では扱わないような内容で児童が楽しめる教材開発を行うことができた。「おれの剣・わたしの剣」は著者の娘が段ボールにクレヨンで剣を描いていた際に、クレヨンで描いた面を保護するために「つやニス」の塗布を思いつき、試したところ美しく仕上がったことをきっかけとしている。この機会に実際に多くの児童が製作をするのを見て、この教材は面白さがあり、十分に楽しむことができるということが分かった。

また、これまでに取り扱ったことがある「エッグキャンドル」については、多人数対象に指導する際の留意点が明らかになった。学生が企画した「貝殻デコレーション」「〇〇に変身」「段ボール工作」については、その面白さや、配慮すべき課題が分かった。今後も教材として活用したい。

(2) 来場者の増加

職員からの聞き取りによると、来場者が増えたということである。大学生が工作指導をすることを広報紙「すずしろ」で告知してくださっているが、ユニークな工作を展開したので、配布先の児童や保護者の関心を引き、大学生が指導する工作の機会に始めて来場した児童と保護者もあったとのことである。実際に「貝殻デコレーション」と「エッグキャンドル」の回は大賑わいであった。通常の「おたのしみ工作」の参加者もこれまでより増加したとのことである。

(3) 参加者アンケートから

お話を聞いて 一緒に
大学生と工作をしよう

きょうの工作はどうでしたか とてもたのしかった たのしかった ふつう つまらなかった

おしえかたの教え方はどうでしたか よくわかった わかった ふつう わかりにくかった

感想をかいてください

これからやってみたいことがあればかいてください

①～⑥の工作については、終了後アンケート用紙を児童に渡し、記入してもらった。項目は

- (1) きょうの工作はどうでしたか
- (2) 教え方はどうでしたか
- (3) 感想をかいてください
- (4) これからやってみたいことがあればかいてください

である。①②については選択肢を設けた。

⑦「〇〇に変身」のファッションショーでは進行役の学生がカードに児童が記入したことをもとに紹介した。その記入内容を示す。⑧「段ボール工作」はアンケートを実施しなかった。⑨「親子であそぼう」は①～⑥とは別のアンケートを作成し、保護者が記入した。

アンケートの回答数と参加した子どもの回答率									
					参加子ども数(人)	回答数(人)	回答率(%)		
① ケーキ屋さん					40	23	58		
② お話づくり					20	13	65		
③ おれの剣・わたしの剣					50	12	24		
④ 貝殻デコレーション					59	28	47		
⑤ エッグキャンドル					59	19	32		
⑥ 棒つきチョコレート・みんなでかこうでっかい絵					20	18	90		
					(1) 今日の工作はどうでしたか(%)		(2) おしえかたはどうでしたか(%)		
活動番号	とてもたのしかった	たのしかった	ふつう	つまらなかった	よくわかった	わかった	ふつう	わかりにくかった	
①	87	13	0	0	87	9	4	0	
②	85	15	0	0	92	8	0	0	
③	92	8	0	0	92	8	0	0	
④	89	11	0	0	86	14	0	0	
⑤	74	21	5	0	79	5	11	5	
⑥	100	0	0	0	56	44	0	0	

どの工作においても、「とてもたのしかった」「たのしかった」と答えた子どもが多かった。子どもと楽しく工作をするという目的は達成されたといえる。

⑤エッグキャンドルでは「とてもたのしかった」と答えた子どもが比較的少なく、教え方は「ふつう」「わかりにくかった」と答えた子どもが多い。エッグキャンドル製作では人数が多く(参加子ども数59名)、後から来た子どもへの声掛けが不十分で、そのために、どうすればよいのか分からず、楽しさが感じられなかった子どもがあったのではないかと考える。

学生が地域に出向いて行う工作教室の意義

参加子ども数が同数であった④貝殻デコレーションは「ふつう」「わかりにくかった」と答えた子どもはいない。後から来た子どもでも、製作の様子を見れば手順が分かりやすかったのではないかと考える。見ただけでは製作方法が分かりにくい場合は、後から来た子どもを決めた場所に誘導し、そこで担当者が手順を伝えるようにするなどの配慮が必要であった。

⑥棒つきチョコレート・みんなでかこうでっかい絵の回では教え方が「よくわかった」と答える割合が低い。棒つきチョコレートは手順が分かりやすいので、みんなでかこうでっかい絵の方に「よくわかる」とは言えない感じがあったのだと考える。なぜ、大きな絵を描くのか、どうやって描くのかという説明が不十分であった。しかし、やってみると、製作ができ、「とてもたのしかった」との回答(100%)につながったのだと考える。

③ 感想をかいてください	
①	楽しかった 13 またしたい 3 もっとつくりたかった 2 家でもやってみたい また来てみたい クリームが少なかった よかった 本物みたいにできた 本当にケーキ屋さんになったみたいだった また、今日みたいに教えてもらいたい
②	楽しかった 5 またしたい 2 やりかたをよく分かるように教えてくれた かわいらしくつくることができた 絵を描くのが難しかった すごい
③	楽しかった 5 またしたい 大学生が明るくおもしろかった
④	楽しかった 17 またやりたい 5 また次も参加したい 2 きれいにできた 2 いろんな色をつけることができた 2 大学生が優しく教えてくれた 2 面倒だった 説明がよく分かった かわいい飾りがあった 海の感じに工夫して楽しかった
⑤	楽しかった 7 またやりたい 3 殻をむいたらとてもきれいだった 2 また次も参加したい 2 難しかった 2 火をつけるのが楽しみ 簡単だった むくのが難しかった 面倒だった
⑥	楽しかった 13 大学生が優しくかった 2 嬉しかった 2 絵をいっぱい描けた おいしそう 学生が賑りながら、『かわいいね』と声をかけてくれて嬉しかった。 「みんなでお絵かき」がすごく楽しかった。ひとりで描くより何倍も楽しかった。しかもいろんな道具をつかうので、家ではできないことがいっぱいできた。

感想からも楽しかったことが伝わる。同じことを「またしたい」という回答が多くあった。大学生との関わりを喜ぶ答えも複数あった。

④ これからやってみたいことがあればかいてください	
またしたい 6 いろんなことをやりたい 3 アジサイ製作 2 ビンゴ 2 一緒に遊ぶ ネックレスやイヤリングをつくる 裁縫をしたい 動物づくり 紙を切る ベルト 工作 飛行機 段ボール工作 ひな人形 クリスマスツリー 簡単なラジコン お菓子 飛行機 もっとデコレーションがしたい	

この問いにも、「またしたい」という回答が多かった。いろいろな仕事を希望している。

⑦〇〇に変身		
タイトル	作品のポイント	この製作をして学んだこと
めがね	めがねの色を考えた	色がすごい

アイス	めがねをキラキラにする	キラキラするものをはった
めがねようふく	ようふくは2日で作りました ゆびわをお花で作りました	ドレスをお花でかざりつけて、とてもかわいいです
あかめがね		楽しかった
だんぼうる	赤いのかざるのを考えた	
はでなまじよ	ステッキ ぼうし	楽しかった

それぞれが思いを持って工夫していることが伝わる。

⑨親子で遊ぼう			
どの遊びがよかったですか ○をつけてください ◎でも OK			
項目	回答	項目	回答
階段のおもちゃ		0・1歳児の部屋	○
ぐらぐらおもちゃ		カラカラ積み木	○
紙トンボ製作	◎○○○	体で遊ぶ	○
ゲーム	○○	お絵かき	
運動遊び	◎○○○	絵本	
感想をお願いします			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 徐々に4人で一緒に遊ぶ機会になってよかったです。思った以上に子ども達が集中してくれてびっくりしました。 ・ 家では体験できない遊びができて大変よかったです。また、このようなイベントがあったら参加したいと思った。 ・ 親子で楽しめるものがたくさんで楽しかったです。 ・ 4歳の娘が自発的に参加していて、とても楽しそうでした。1歳の息子も連れてだったので、娘に付きっきりというわけにはいきませんでした。学生さんが皆さん優しく対応してくださり助かりました。マシュマロサンドは私もおいしく頂き、楽しい時間でした。ありがとうございました。 ・ 手づくりの玩具で楽しそうに遊んでいました。マシュマロがとてもおいしかったです。ありがとうございました。 ・ 子どもが楽しんでくれているので良かったです。 			

製作と運動遊びをよかったと答える保護者が多かった。感想の記述から、親子で楽しめる活動ができたといえる。学生の対応のよさに触れたものもあった。

(4) 学生へのアンケートから

学生に下記の事項について記述式で回答を得た。(回答者 14名 回答率 67%)

学生	今回の活動を通して得たことを三つ答えてください。	活動番号	学年
A	自分より小さい子に分かりやすく何かを教えることの難しさを実感した 子どもは待つことができないことを知った 自分でできないとやる気がなくなってしまうことが分かった	①	1年
B	多数の児童を相手に話す際の大変さ (何か) 作業をする際、自ら進んでやろうとする力を学んだ 身近に子ども達と触れ合えた	③	1年

学生が地域に出向いて行う工作教室の意義

C	子どもの考えに寄り添い、子どもの主張を取り入れる 子どもに伝える（説明する）ことの難しさ ボランティアをするまでの下準備不足	④	1年
D	複数の子ども達に作業のやり方を教えたり、質問に答えたり、次から次へとやるべき事があったので大変だった。子どもに接する大変さを実感した。 事前準備にとっても手間がかかる。下準備をするにあたって、まわりとしっかり相談しなければならなかった。下準備の時間も大切だと実感することができた。 子どもの親と接する機会があまりないので、慣らしておくためのよい機会となった。	④⑨	1年
E	疲れもあるが、それ以上に楽しさがある 順序よく説明することの大切さ 子どもでも教えあいをしてくれることの発見	⑤	1年
F	子どもに教えることの大変さ 人見知りの子への接し方 保護者との接し方	⑤	1年
G	子どもとの接し方 どのようにしたらうまく伝わるか どのようにしたら仲良くなれるか	⑥	1年
H	人に説明をする難しさ 子ども達のアイディアの発想力のすごさ 人見知りで、なかなか話しかけても最初話さなかった子が話しかけて来てくれたり、抱きついてきてくれたりした時の嬉しさ	⑥	1年
I	子どもが思っていることを感じて引き出す スケジュール管理 目的に沿った行動をすること	①④⑥ ⑧⑨	2年
J	道具の使い方を少しアドバイスすれば自分のできるようになる お父さん、お母さんも一緒に遊ぶことでさらに遊びが盛り上がる 遊びの環境（玩具の種類がたくさんあるなど）が整っていると、子どもは自ら遊びを豊かにしていく	⑦⑨	2年
K	子どもは親と遊ぶ時は倍の笑顔がある 積み木やお絵かきなど同じものを使っているでもそれぞれの個性がでる。「どうしてこれを描こうと思ったの」と質問すると、ほとんどの子どもには描きたいエピソードがあって、こどものイメージは日常から得ているのだと思った。 年齢によって玩具の使い方がかわってくる	⑦⑨	2年
L	子どもの意欲を尊重しながら誘導する 実際に子どもがどのように遊ぶか予想がある程度立てられるようになった レイアウト方法	②⑧⑨	2年

M	最悪な場合（子どもができないなど）を想定して準備できるようになった 子どもにどんな手順で教えれば分かりやすいか考えられるようになった 子どもたちは何ができて、何ができないのか分かった	②⑧⑨	2年
N	おもちゃの配置方法（子どもの遊びを誘発できそうな配置） 子どもとの遊び方（オーバーに表現すると喜んだり、リアクションが来たりする。） 上手い搬出入の仕方（効率よく運ぶには？） 子ども向けのマップ作成（分かりやすくすること、シールを貼る場所や、キャラクターを工夫した）	⑨	2年

1年生は、子どもの様子や『教えるのは難しい』というように感じたことを記述しているものが多い。『子どもとの接し方』との答えからは、子どもと積極的に関わろうとした様子が伝わる。また、準備して臨むことの大切さについて記しているものがあつた。『子どもの考えに寄り添い子どもの主張を取り入れる』という、こどもの表現を引き出す上で大切なことを述べているものがあつた。教育学部の授業で学んだことを実際に確かめることができたのではないかと考える。

2年生は見通しを持って行動できるようになったことや、分かりやすい説明方法を考えることができるようになったことが記されている。『子どもが思っていることを感じて引き出す』、『子どもの意欲を尊重しながら誘導する』といった、子どもの思いをどう感じ取って生かすのかといった子どもの主体性を大切にしながら自分の行動のあり方を記述したものがあつた。また、年齢による遊びの違いについて記述したものがあつた。他の子育て支援活動において、親が見守るなかで子どもと遊んだ経験を持つ学生は、親と一緒に遊ぶことで一層楽しくなることを記していた。一部の2年生には遊び場の設営を任せただけで、玩具等の配置をどうすればよいのかという視点を持つことができていた。

5. まとめと今後の課題

児童や保護者が工作や親子遊びを楽しむことができ、来館者が増加した。工作指導によって、新たな教材を開発することができた。また、指導上配慮すべき点が明らかになった。学生の企画力・実践力を高めることについては、ある程度達成できたと言える。特に学生が企画した内容については、試作品を製作し、つくり方の図を作成するなど、責任を持って取り組む姿があつた。

課題は、鑑賞活動が不十分であつたことである。鑑賞活動を充実させるために、活動の事前及び事後の話し合いを実施するとよいと考える。事前に製作の目標と配慮事項や鑑賞の方法について担当学生と話し合い、事後には成果と課題を話し合う。作品が出来たら、その作品のよさや美しさなどを児童に伝えることを学生が意識的に実施すれば、学生の作品を見る際の感性も高まると考える。

工作の内容によっては参加数にばらつきがあつた。最初は児童の関心をひくようなタイトルの工作をし、次第にテーマは地味に感じられるかもしれないが、やってみると楽しい工作をするなど、全体を通しての構成を工夫したい。また、予想以上に来場者があつて、材料が足りなくなることがあつた。多めの準備を心がけたい。手順が分かりにくいものは、後から来る児童のために説明する場所を設けるなどして工夫をしたい。

著者は大人にも製作を楽しんでほしいと考えている。児童は楽しみながら工作をすることで、身の回りの自然や社会、家族や友人、自分についての認識を深めている。保護者にも、ちょっとした工作

学生が地域に出向いて行う工作教室の意義

を楽しみ、それによって気づきを得るとともに、子どもとの交流が深まるような体験をしてほしい。

来年度も宮崎国際大学の学生が宮崎市きよたけ児童文化センターにおいて工作活動をする予定なので、児童の保護者である父母だけでなく、児童の祖父母まで広げて参加できるような企画を考えたい。そして、製作や創造の価値を知り、児童の製作や創造を大いに喜び楽しむ大人を増やしたい。

製作においては、手順を指示するものばかりでなく、製作意欲を喚起するような提示およびきっかけの展示を行うことで、児童が見通しを持って進んで表現できるような教材を研究し、実践したい。